

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2023年7月-9月 通巻第176号



園長のおすすめ 2022年9月12日号より

オニフスベ

Calvatia nipponica Kawam. ex Kasuya & Katum.

林の中に、球形から扁球形の白色で、径20~30cmになるキノコを見付けた。オニフスベはホコリタケ科オニフスベ属のひとつ。外皮と内皮からなり、やがて褐色に変わり、胞子を飛ばして跡形もなく消え失せる。夏から秋に雑木林、竹藪などに単生する。書物によると、食用になるのは、肉が真白で弾力あるうちに限るとある。今まさにこの状態であるが、食べてみる勇気はない。

(園内位置：フジ棚奥の斜面 [ツバキ園側]) [写真・文 永井 親雄]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>

ほとんど知らない？ コーヒーの花

毎朝、飲む習慣となっている方も多いコーヒー。中には食後のコーヒーということで毎食後に飲まれる方もいるのではないのでしょうか。それほど人気の嗜好飲料ですが、子どもにとっては、苦味のあるコーヒーを敬遠することも多いはず。コーヒーは大人の味なのかもしれませんが。かくいう私も子供のころは砂糖とミルクをたっぷり入れて飲んでいました。今回は、大人の味？コーヒーについてご紹介します。

コーヒー豆が収穫できるのはアカネ科コーヒーノキ (*Coffea*) 属の植物で、アフリカ大陸を中心に100種以上の野生種が存在しており、このうち飲料として利用される種は主にアラビカ種 (*Coffea arabica*) とカネフォラ種 (*Coffea canephora*) です。カネフォラ種はロブスタ種 (*Coffea robusta*) と呼ばれることもあります。コーヒー業界ではロブスタと呼ばれることが多いです。この他に、リベリカ種 (*Coffea liberica*) も存在しますが、品質が上記の2種に劣ることもあり、ほとんど出回ることはありません。ここまで挙げた3種をコーヒー三大原種と言います。

アラビカ種は南スーダン東部やエチオピア南西部の高地が原産と言われています。標高の高いところに自生するため、高温は苦手です。またコーヒーノキにとって脅威となるさび病に弱いという性質を持っています。これらデメリットと思われる性質を有するにもかかわらず、風味豊かな味わい深いコーヒーを楽しめるということで、世界の生産量のおよそ6~7割を占めています。主にレギュラーコーヒーとして利用されています。

一方のカネフォラ種ですが、熱帯アフリカ西部から南スーダンにかけて自生する種で、こちらは高温となる標高の低いところでの生産が可能で、かつさび病に強いという性質を持っています。しかもアラビカ種よりも収量が多いというメリットがあります。しかしながら、アラビカ種よりも苦味が強く品質が劣るため、アラビカ種よりも安価に取引されています。そのため、主にインスタントコーヒーとして利用されています。世界の生産量のおよそ3~4割を占めています。

コーヒーノキの花は、アラビカ種、カネフォラ種ともに白色で、香りはジャスミンのような大変良い香りで、たくさん開花した時には遠くからでもよく香ります。花弁は一見すると複数枚あるように見えますが、付け根でくっついており筒状となっています。筒の先は4~9裂すると言われており、本園の株は5~7裂していることが多いです。裂数と同じ数のおしべを有し、めしべは1本で柱頭は2裂しています。アラビカ種の花の大きさは約2.5cm、果実長は約1.5cm、カネフォラ種の花の大きさは約4.5cm、果実長は約2cmと、カネフォラ種の方が花、果実ともに一回り以上大きいです。花の寿命は数日と短いのですが、運が良ければ大量開花であたり一面に漂っている芳香を楽しむことができます。



写真1 カネフォラ種の花



写真2 アラビカ種の果実

2023年7月～9月 展示会・イベント案内

7/15 (土)
～ 8/31 (木)

サマーフェア (水遊び広場)

天然芝の上で水遊びを楽しむことができます。
(期間中の開園日は毎日開催。各回10分、雨天中止)
時間：10:30、11:00、11:30、13:30、14:00、14:30

7/22 (土)
～ 8/31 (木)

ヒマワリ ウィーク

森のレストラン前花壇に、約1,400株のヒマワリ
(品種名：サンフィニティ) が咲き誇る「ヒマワリ
の丘」が今年も登場！夏の記念撮影にどうぞ。

9/9,16,17
23,24

夜間開園 (サガリバナと夜の植物の競演)

9月中旬の週末・祝日の5日間限定で夜9時まで
開園時間を延長します。サガリバナ等の夜咲く
花・夜香る花の競演をお楽しみいただけます。

展示会のご案内

特別企画展「牧野富太郎と広島」+ 体験コーナー	6/17～ 9/18	展示資料館
アリ植物とカラフルリーフ展 <small>ギャラリートーク 7/1 13:30～</small>	6/24～ 7/17	展示温室
盛夏のスイレン展	7/ 8～ 9/24	大テント前 など
世界の食虫植物展 <small>協力：広島食虫植物同好会</small>	7/20～ 8/15	展示温室
変化朝顔展 <small>協力：広島あさがお研究会</small>	8/19～ 8/27	展示温室
薬用植物展	9/ 2～10/ 1	展示温室
植物友の会植物同好会ロビー展示 <small>共催：植物友の会植物同好会</small>	9/ 5～ 9/10	展示資料館 ロビー
ボタニカルアート作品展 <small>共催：NHK文化センター ボタニカルアート教室</small>	9/23～10/19	展示資料館

盛夏のスイレン展 (新規)



世界の食虫植物展



Event Information 2023 7-9

植物園で開催されるイベントを紹介します

7月

特別企画展講演会 (先着100名)
7月2日(日) 午後1時半～3時
講師: 藤井 聖子氏 (高知県立牧野植物園)

アリ植物講演会 (先着100名)
7月9日(日) 午後1時半～3時
講師: 伊藤 彰洋氏 (伊藤蟻植物農園代表)

園内散策～広島の絶滅危惧植物～ (先着40名)
7月15日(土) 午前11時～

アリ植物実演会 (先着100名)
7月15日(土) 午後1時半～3時

みどりとむし講座 (先着100名)
「カブトムシとクワガタムシ」
7月30日(日) 午前11時～正午

8月

食虫植物実演会 (先着100名)
8月12日(土) 午後1時半～2時半

変化朝顔展解説 (先着100名)
8月20日(日) 午前10時～11時

9月



薬用植物展解説 (先着100名)
9月10日(日) 午後1時半～2時

* イベントの内容は、一部変更になる場合があります。
最新情報はホームページ・電話等でご確認ください。

* 毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています

* 7/2, 7/25, 8/5, 8/22, 9/9, 9/26 各日午前11時～は、園内で職員による植物うんちく語りを実施しています

◇ **募集** ◇ ※往復ハガキに催し名・住所・応募者全員の氏名・電話番号(・希望日)を記入してお申込みください。植物公園のホームページ(Web申込のQRコード)からもお申込みいただけます。

催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
親子植物体験教室 7月29日(土) 午前10時半～午後2時(昼休憩あり)	植物観察や花育体験(フラワーアレンジメント)を行います。 参加費: 1,000円 対象: 小学校1～3年生(保護者同伴)	20名(抽選)	7月10日【必着】	
オオオニバス試乗体験会 8月8日(火)、11日(金・祝) 13日(日)、15日(火) 午前9時半～正午、午後1時～3時半	直径1m以上になるオオオニバスの葉に乗る体験会。 対象: 体重30kgまでの子ども 備考: 希望日を第2希望まで記入	各日 300名(抽選)	7月19日【必着】 往復ハガキのみ	
先生と子供のための森の幼稚園 10月8日(日) 午後1時半～3時	カエデの葉の観察やどんぐり拾い。 参加費: 1人当たり100円 対象: 年中・年長の子どもと保護者	25名(抽選)	9月19日【必着】	

第47回広島市植物公園植物写真コンテスト

募集期間 9月2日(土)～11月30日(木)

植物公園の植物や園内風景を題材として、写真コンテストを実施します。応募は1人5点まで。デジタルカメラの写真も応募できます。詳細はチラシをご覧ください。

盛夏に咲く山野草

Wildflowers blooming in summer



オミナエシ (里山の野草園ほか)



センノウ (里山の野草園)



ミソハギ (花の進化園)

盛夏に見ごろを迎える山野草を3つ紹介します。オミナエシは秋の七草の一つで、敗醬（はいしょう）と呼ばれる生薬になる薬草です。センノウは中国原産で、室町時代に伝わり、茶花に用いられます。ミソハギはお盆の時期に咲くことから、墓にお供えする盆花として知られています。

アリ植物

myrmecophyte、ant plant

アリノスダマ (アカネ科)
の肥大した莖

アリノスダマ (アカネ科) の花

ヒドノフィツム・フォルムカルム
(アカネ科)モノレラ・プリムリフロラ
(ノボタン科)アリノスシダのなかま
(ウラボシ科)トコカ・ギアネンシス
(ノボタン科)

アリ植物は、特定の植物の仲間を指す呼び名ではなく、アリと共生関係にある植物の総称です。共生関係には様々なパターンがあり、なかにはアリノスダマのようにアリを住まわせる種類もあります。ユニークな形態と生態を持つ面白いアリ植物をぜひご覧ください。

7月～9月に見ごろを迎える植物

7月～8月



タイタンビカス
(カスケード)

9月頃



セイヨウフジバカマ
(ログガーデンほか)

7月～10月



オジギソウ
(花の進化園)

8月下旬～9月



キセルアザミ
(花の進化園)

7月～9月



サガリバナ
(大温室)

7月～9月



フウリンブッソウゲ
(大温室)

7月末～8月中旬



サギソウ
(フクシア温室・里山の野草園)

8月～10月



マツムラソウ
(ロックガーデン)

7月下旬～8月中旬



ヒゴタイ
(里山の野草園)

7月上旬～中旬



オウゴンオニユリ
(里山の野草園)

9月中旬～下旬



ヒガンバナ
(里山の野草園ほか)

7月下旬～8月



ヒマワリ サンフィニティ
(レストラン前花壇)

今年もレストラン前の花壇に、約1,400株のヒマワリ（品種名：サンフィニティ）を植えています。このヒマワリは、花の大きさこそ小ぶりですが、開花期が長く、ひと夏中ヒマワリ畑を楽しむことができます。今年にはヒマワリウィーク [7月22日 (土)～8月31日 (木)] を初開催します。 [写真・文：久保晴盛]



Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. セントポーリアの葉が茶色く傷みます。何が原因なのでしょう？

A. 葉に水をかけていないのでしょうか？

セントポーリアは葉水をすると茶色く変色した葉焼けのような傷み方をするものが多くあります。特に、冬場の低温時に冷たい水が葉に当たると傷みが顕著で、一日ほどで葉に色抜けしたような傷が現れます。そのため、水はなるべく株元にだけ与え、葉にはかからないようにします。

おすすめのかん水方法としては、植え替えの際に、園芸用吸水テープを鉢の中に入れ、そのテープから吸水させて栽培する底面吸水があります。園内でも、多くのセントポーリアは底面吸水で栽培していますが、水がかからないので葉の傷みもなく、順調に育っています。

ただし、湿度が低いとホコリダニなどの害虫が集まりやすく、成長点や葉に傷みが発生するので、日々の観察が大切です。ダニ類の駆除は非常に難しく、一度発生するとなかなか被害が収まりません。ダニは柔らかい新芽を好むため、ダニが発生すると新芽が傷み、葉が委縮するなど、生育に悪影響が出ます。一度退治したとしてもそのまま同じ環境で栽培しては、またダニを呼ぶことになりかねません。したがってダニを退治することも大切ですが、ダニの発生しにくい環境づくりを心がけましょう。

セントポーリアは、葉に水がかかることは嫌がりませんが、湿度の高い環境は好みます。セントポーリアが元気に育つ環境を整えることがなお効果の高いダニ対策となります。また、セントポーリアは日のあまり当たらない室内でも栽培できます。蛍光灯の光やLEDなどの植物育成ライトで半日ほど日が当たる環境に置いておけば、いつでも花を咲かせてくれます。

[文 上野明 楽]

Q. アサガオの開花を早めるにはどうしたらよいでしょうか。

A. アサガオは「短日植物」といって、連続した暗い時間が長くなると花を咲かせる性質があります。

この性質を利用したのが、短日処理で、朝と夕方に数時間ずつ段ボール箱を被せたり、一部の葉をアルミニウム箔で覆うなど、人工的に日光を遮る処理のことを言います。

この処理を行うことで、アサガオは暗い時間が長くなったと勘違いするため、開花が早まるとされています。逆に、夜中でも明るい街灯の近くなどで育てた場合、連続して光があたらない時間が中断されてしまうため（光中断）、花がなかなか咲いてくれないこともあります。育てる場所を選ぶ際は、注意が必要です。

[文 山本 晃弘]

Q. 毎年、pH調整のために石灰をまいているはずなのに、夏場になるとカルシウム欠乏による葉先の枯れや、尻腐れがでます。どうしたらよいのでしょうか？

A. カルシウムは植物が生育するために必要な必須元素のひとつで、植物の細胞壁をつくるための材料となる成分です。特に若い葉や果実など成育旺盛な組織は細胞壁合成が盛んであるため、カルシウムを多く必要とします。

ご相談のようなカルシウム欠乏になる理由としては、①そもそも土壌中にカルシウムが不足している場合と、②土壌中には十分なカルシウムがあるにもかかわらず植物体内での移行や分配がうまくいかない場合とがあります。

①の場合は、元肥や追肥としてカルシウムを供給することが必要です。②の場合は、夏の暑さで土が乾燥し、土壌中のカルシウムを根から吸いにくくなっている可能性があります。まずは、水やりを積極的に行うことで根からのカルシウム吸収を促しましょう。

また、カルシウムは、水とともに根から吸われ植物体内に分配されますが、一度どこかに到達すると、再移動しないという特徴があります。そこで直接効かせる方法として、葉面散布を行うと効果的です。市販のカルシウム入りの液肥を散布するのも良いですが、卵の殻と食酢で酢酸カルシウムを自作して散布する方法もオススメです。

夏場のカルシウム欠乏を、上手に乗り切りましょう。

[文 富澤 まり]



「G7おもてなし花壇」と「G7ガーデンピック」

2023年4月から5月にかけて、G7広島サミット（2023年5月19日～21日開催）を記念し、各国ゆかりの植物を集め、「G7おもてなし花壇」として、カスケードに展示しました。ご紹介した植物は以下の7種類です。

1. 菊と桜（日本）

日本には法律で定められた国花はありませんが、古くから皇室の紋章などに使用されている菊と花見などで広く国民に愛されている桜を展示しました。今回は、菊は切り花を購入して展示し、桜は4月上旬に咲くソメイヨシノとオオシマザクラ、4月中旬に咲く関山の3種類の切り枝を蕾の頃に採取して冷蔵庫に一定期間保存し、取り出してG7期間中に花を咲かせました。

2. サトウカエデ（カナダ）

カナダの国樹。樹液から作るメイプルシロップはカナダの特産物です。国旗の中央にもサトウカエデの葉が描かれています。鉢で展示しました。

3. バラ（イギリス、アメリカ）

王家の紋章であるバラ（テューダーローズ）がイングランドの花とされることが多いため、イギリスのゆかりの花として展示しました。また、バラは1986年にアメリカの国花に制定されています。園内で栽培しているイギリスとアメリカで作出されたバラの園芸品種を鉢で展示しました。

4. ヒナギク（デージー）（イタリア）

ヒナギクは、イタリアの王政終焉（1946）まで慣習上の国花とされていました。イタリア語名はマリゲリータで、19世紀のイタリア王妃、マリゲリータへの敬愛の意を込め、同じ名の花を国花としたとの説があります。

[写真・文 井上 尚子、富澤 まり]

5. ヤグルマギク（ドイツ）

ドイツゆかりの花、ヤグルマギクは、ヨーロッパ原産で、麦畑などに生えることから「コーンフラワー」とも呼ばれます。ドイツ初代皇帝ヴィルヘルム1世が子どもの頃、ナポレオンに攻め入れ逃げ込んだ麦畑の中で、母ルイーゼ王妃が作ってくれたヤグルマギクの花冠が忘れられず、皇帝への即位後に紋章に決めたというエピソードが伝えられています。

6. 白ユリ（フランス）

フランスの国花については、国旗の青・白・赤を表す、ヤグルマギク、マーガレット、ヒナゲシとする説や、ルイ王朝の紋章とされる純白のユリ、マドンナリリーあるいはアイリスとする説などがあります。今回は純白のユリを切り花で展示しました。

花壇の設営にあたっては、友の会管理ボランティアの活動の一環として、ヒナギクやヤグルマギクの植え付けを手伝っていただきました。このほか、G7広島サミット県民会議から配布された県産材を利用した「G7ガーデンピック」に、友の会の皆さんのメッセージを書いていただき、花壇にて展示しました。

友の会会員の皆様のご協力に対し、この場を借りてお礼申し上げます。



 広島市植物公園

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半（入園は4時まで）
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

